

今週（6月1日から6月5日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週初1日の日銀当座預金残高が420兆円程度で始まったものの、税・保険料揚げや国庫短期証券の増発の影響などにより、2日以降は410兆円台後半での推移となった。無担保コールO/N物は財政要因から当座預金残高が減少したものの、地銀業態では引き続き新型コロナウイルスに係る給付金の影響により、調達意欲は限定的であった。一方で、都銀・信託業態を中心に、新型コロナ支援オペによってマクロ加算残高増加したと見られる先においては調達ニーズが高まっていた。これらの要因から、出会いのレートは低位ながら、無担保コールO/Nの市場残高は8兆円前後と高水準での推移となった。加重平均レートは、週前半は▲0.05%後半、週半ばに参加者の減少によって▲0.068%まで低下する日もみられた。週末5日は3日積みによる積極的な調達もあり、上昇した。ターム物は、週初には月内物で▲0.08～▲0.07%、週後半にかけても▲0.07%の出会いがみられ、地銀業態からの運用ニーズの強い状態が続いている。

●レポ市場

今週のO/N GCは週を通して投資家の資金調達ニーズが見られたことで、レートは安定して、▲0.10%前後の出会いとなった。週初1日のT/Nは▲0.10～▲0.08%の出会い、翌2日のT/Nは▲0.11～▲0.09%の出会いとなった。その後も同水準の出会いを続け、週末5日のT/Nは、短国の入札発行があったため、▲0.08%程度の出合いからとなったものの、徐々にビッドが増加し、▲0.10%程度まで低下した。

SCについてはビッドが目立った銘柄は5Y141～142、10Y352～358、20Y169～171にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、増発により需給が徐々に悪化していることから、3M物は、▲0.110～▲0.105%出合いと、やや軟調に推移した。一方で、2日には短国買入オペの目安の上限とされている3兆円でオペが実施されたことで、オペ期待などから、6M物は▲0.198～▲0.195%、1Y物は▲0.200%出合いと、堅調な推移となった。

2日に実施された短国買入オペは、前回から1兆円増額の3兆円でオファーされ、平均落札利回較差+0.003%、按分落札利回較差0.000%と、無難な結果となった。

5日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.104～▲0.101%で出合中、平均落札利回▲0.0986%、按分落札利回▲0.0922%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.101～▲0.095%程度で推移した。

●CP市場

今週は、月初にあたり案件こそ少ないものの、複数の業態で大型発行がみられた。中でも、電気機器業態からは6Mを超える期間で2,000億円以上の発行が見られるなど、良好な発行環境が継続している。週間の金額ベースでみると、2,100億円程度の償還に対し、5,600億円程度の発行と発行超となった。市場残高は、先週から増加し、24兆円台半ばと高水準で推移している。発行レートについては、引き続き0%程度から浅いマイナスと低水準での推移となった。投資家層が比較的薄い6M以上の期間に対する入札でも、オペ見合いと見られる積極的な買いが見られた。

4日にはCP等買入オペが、予定通りの6,000億円でおファーされた。按分レートは▲0.017%と、前回から上昇し、ディーラーの在庫入替ニーズの強さを反映する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/1 (月)	22,062.39	0.005	107.75	△ 0.058	△ 0.096	4,204,400
6/2 (火)	22,325.61	0.005	107.56	△ 0.059	△ 0.110	4,182,800
6/3 (水)	22,613.76	0.010	108.65	△ 0.068	△ 0.100	4,164,600
6/4 (木)	22,695.74	0.025	109.00	△ 0.064	△ 0.097	4,171,100
6/5 (金)	22,863.73	0.040	109.13	△ 0.057	△ 0.081	4,169,900

来週（6月8日から6月12日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
6/8 (月)	1-3月期のGDP2次速報(内閣府 8:50) 4月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 4月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 5月の景気ウォッチャー調査(内閣府)			
6/9 (火)	4月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 5月のマネーストック(日銀 8:50)	TB6M 28,000億円 6/10発行		米FOMC(1日目) 4月の米卸売売上高 1-3月期のユーロ圏GDP確報値
6/10 (水)	4月の機械受注統計(内閣府 8:50) 5月の企業物価指数(日銀 8:50)	交付税借入 21,000億円 6/19借入		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 5月の米財政収支 5月の米消費者物価指数
6/11 (木)	4-6月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)	流動性供給 5,000億円 6/12発行		5月の米生産者物価指数
6/12 (金)		TB3M 91,400億円 6/15発行	エネルギー 対策借入 7,500億円 6/22借入	6月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/8 (月)	300	▲ 39,400	▲ 39,100	国債買入 CP買入 国債補充		10,900 ▲ 200 300	11,000	▲ 28,100	TB3M発行△91400償還45500
6/9 (火)	1,000	10,000	11,000	CP買入		6,000	6,000	17,000	財政の払い
6/10 (水)	0	▲ 3,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	TB6M発行△28000償還21800
6/11 (木)	0	0	0				0	0	
6/12 (金)	0	▲ 8,000	▲ 8,000	被災地支援 国債売現先(米ドル)	▲ 800 9,300		8,500	500	源泉所得税揚げ 社会保障費 財政の払い 流動性供給△5000 交付税借入△21000期日10500
週間合計	1,300	▲ 40,400	▲ 39,100	—	8,600	16,900	25,500	▲ 13,600	

6/8は日銀予想、6/9以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期間終盤に入ったことで、取り調整に動く先が出てくることも想定される。一方で、特定給付金の払いが複数予定されていることから、レートの上昇幅は限定的なものにとどまると予想する。レポ市場は、GC T/Nは引き続き投資家の調達が入ると予想され、レートは安定的に▲0.10%前後の出会いになると見られる。短国市場は、9日に6M物、12日に3M物の入札が実施予定となっている。短国が増発される中、レート水準や11日に予定されている短国買入オペなど、市場動向が注目される。CP市場は、12日にCP等買入オペが6,000億円予定されている。2週連続の実施となることから、2回連続で上昇している按分レートが再び低下に向かうかどうか注目が集まる。

主要なイベントとしては、国内では8日に1-3月期のGDP2次速報、海外では9日に1-3月期のユーロ圏GDP1次速報、9～10日にFOMCが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡りする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入